

片山タイムズ

第五号
令和四年
九月吉日

今月のお道具

秋草内虫蒔絵(前田清峰)

吹雪「秋草内虫蒔絵」です。
外側は秋草が描かれ、蓋の内側には鈴虫が描かれています。吹雪ですのでお稽古は二引きで清めてください。
まだ九月は暑い日が続きますが、お道具で秋を感じてください。



秋草内虫蒔絵

前田清峰

昭和52年より7年間 曾又真山先生に師事
昭和59年独立現在に至る
輪島市蒔絵組合 新作品展 入賞

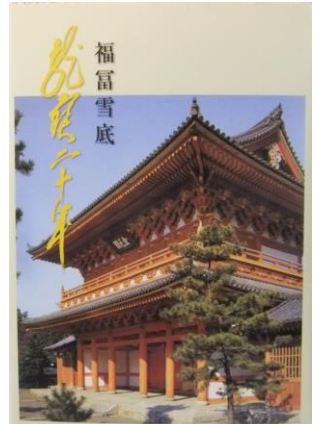
お稽古の中で

以下のような質問がお稽古中にありました。
「祥瑞(しょうずい)・絵付け・呉須・景德鎮・染付って言いますが、全部白磁に青い絵を描いたものには見え、違いが判らないので教えてください。」



祥瑞の水差

本から伝えたいこと 龍寶二十年 福富雪底



龍寶二十年

前月に引き続きお送りします。

●**龍雲斎大宗匠**..昔の人はお互いお茶をたてて、敵も味方も、一緒になってお茶を一杯のんで、その後、会話したのです。茶室では武士にも帯刀を許さない。刀を置いて丸腰で茶室へ入った。身分の条件は一切なし。大名も武士も、敵も味方もない。みんな一緒です。そしてお点前となるある程度の時間がかかりますから、その間に静かに考え思うことができる。それで、「お先に」とか、「いただきます」とかという気持ちを言っただけで、心の中では相手を非難していても、なにかつなごうと生まれてくるのです。今の政治家や経済界の方も、お茶室での一服をすすめ合えば、私はより以上のすばらしい人間性が生まれてくると思うのですが、しかし、忙しい、忙しいというだけでお茶をたしなむ方が少ないのは残念なことです。

●**福富雪底和尙**..例の小田原の陣中での利休さんね。あれなんかは普通のお茶席のお茶なんかでない。明日には死ぬかもわからん陣中のお茶だった。

●**龍雲斎大宗匠**..戦乱のまっただ中。北条氏を討つため小田原に陣を進めた秀吉に随伴し、利休は陣中で茶会を催しています。それはなるべく合戦にならぬように心を落ち着けてから事に臨もうとするよい意味での茶会でした。

●**福富雪底和尙**..やはりたいへんなお茶ですよ。武将たちには末期のお茶だ。

●**龍雲斎大宗匠**..しかも利休には、自分の弟子の上上宗二が秀吉に残酷な殺され方をしたその後でした。

※下段に続きます

コロナ過で比較的分散してお稽古していますが、それでもお生徒さん同士で時間が多少被ることもあります。あの人苦手だとか合わないなどということも人間なのであるかもしれせん。でも一緒の社中でお茶の稽古をして一服することにより、連帯感を持っていただけるといいなあと思います。

お菓子紹介

着せ綿

重陽の節句の前夜に、庭の菊の花に綿を被せて一晩、綿に菊の香りのする夜露をたっぷり染みこませ、翌朝、この菊の露を含んだ綿で肌を拭いて菊の薬効に健康、長寿を願う「菊の被綿」(きくのきせわた)と呼ばれる風習がありました。

暦の関係など今は目にすることはありませんが、茶席にはいまでも九月になると「着せ綿」が登場します。



九月のお稽古で、タイミンングによっては召し上がれるかもしれません。

花月のお稽古

通常のお稽古とは別に、花月のお稽古を実施しております。ご希望の方はお稽古日にお問い合わせてください。

